

7月30日は「梅干の日」

みなべ 東農園がPR

毎年7月30日を「梅干の日」録して以来、毎年東京都内「日」として浸透させて消費に於ける店舗やデパートの売拡大を図るうち、みなべ町り場で梅干の日をアピール東本庄の東農園（東善彦社長）は、キャンペーンやチラシ配布などでPR活動を続けている。

梅干しを食べると難が去ることなど古くからの言い伝えにのっとり、この日を「難が去る」として語呂合わせにした。

同社は2004年に日本記念日協会に梅干の日を登録。毎年6月6日を「梅の日」

として、田辺市やみなべ町の梅加工業者や生産者らでつくる「紀州梅の会」が制定している。京都市の上賀茂・下鴨両神社に青梅を奉納するなど行事が定着している。

梅干しを食べる動機付けとなることを目指している。東本庄社長は「語呂合わせであれば、分かりやすく皆さんに梅干しをアピールできると思った。小売業者からも梅干の日に興味を持ってくれ、普及に弾みをつけ

のほりやチラシで梅干の日をPRする（みなべ町東本庄で）

